（別紙様式4）

【職業実践専門課程認定後の公表様式】

令和5年7月31日 ※1
（前回公表年月日：令和4年7月31日）

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
福岡ECO動物海洋専門学校	平成16年2月23日	黒見　義正	〒　812-0033 （住所）福岡県福岡市博多区大博町4-16 （電話）092-262-2177
設置者名	**設立認可年月日**	**代表者名**	**所在地**
学校法人滋慶学園	昭和58年12月23日	浮舟　邦彦	〒　134-0084 （住所）東京都江戸川区東葛西6-16-2 （電話）03-5878-3311，03-6808-3201

分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士
文化・教養	文化・教養専門課程	エコ・コミュニケーション科　ドッグトレーナー専攻	平成17年文部科学省告示第176号	－

学科の目的	「職業人教育を通して社会に貢献していく」ことを使命とし、動物・海洋・自然の仕事を通して、人に喜びと感動を与え、動物業界での即戦力となる人材を養成する。
認定年月日	平成26年3月31日

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2　年	昼間	1,800時間	660時間	3.270時間	0時間	0時間	0時間 時間

生徒総定員	生徒実員	留学生数（生徒実員の内）	専任教員数	兼任教員数	総教員数
160人	122人（内37人）	0人	1人	24人	25人

学期制度	■前期：　4月1日　～　9月30日 ■後期：　10月1日　～　3月31日	成績評価	■成績表：　有 ■成績評価の基準・方法 評価の基準：　・出席率、授業態度と参加度　・臨時及び定期試験の成績　・レポート並びに課題成績　上記項目を総合的に勘案 評価の方法：　4段階評価
長期休み	■学年始：4月1日　～　4月2日 ■夏　季：7月25日　～　8月20日 ■冬　季：12月26日　～　1月9日 ■学年末：3月2日　～　3月31日	卒業・進級条件	卒業要件： 各年次の合計習得単位が900時間（60単位）以上 進級要件： 2年間合計習得単位が1800時間（120単位）以上
学修支援等	■クラス担任制：　有 ■個別相談・指導等の対応 担任は定期的に個別面談を行うと共に、学生から相談があれば随時個別相談を行っている。 また、長期欠席者への指導については、保護者にも連絡をとり三者面談を実施する。	課外活動	■課外活動の種類 （例）学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 学友会活動の一環として、年間イベントの実施、動物飼育クラブ活動を行っている。 ■サークル活動：　有
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等（令和4年度卒業生） 犬の訓練所、ペットショップ他 ■就職指導内容 ・就職ガイダンス（業界人特別講話、業界研修に向けての取り組み、OB/OGセミナーなど）　・履歴書作成指導　・求人案内　・面接指導、就職筆記試験対策　・学内個別企業説明会、就職模擬面接会　・学内合同企業説明会（学内にて各企業から説明） ■卒業者数　19　人 ■就職希望者数　14　人 ■就職者数　13　人 ■就職率　92.85　% ■卒業者に占める就職者の割合 ：　68.42　% ■その他 （令和　4 年度卒業者に関する令和５年５月1日時点の情報）	主な学修成果（資格・検定等）※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 （令和4年度卒業者に関する令和5年5月1日時点の情報） ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他（民間検定等） ■自由記述欄 （例）認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等

資格・検定名	種別	受験者数	合格者数
コミュニケーションスキルアップ検定	③	18人	18人
ECOアニマルコーディネーター検定	③	14人	16人
アソシエイト・ホスピタリティ・コーディネーター	③	8人	8人

中途退学の現状	■中途退学者　2 名　■中退率　6 % 令和4年4月1日時点において、在学者33名（令和4年4月1日入学者を含む） 令和5年3月31日時点において、在学者31名（令和5年3月31日卒業者を含む） ■中途退学の主な理由 精神面の課題及び経済的理由 ■中退防止・中退者支援のための取組 ・スクールカウンセラーとの連携を強化 ・動物の仕事のやりがい等を伝えモチベーション維持を図る
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授学料等減免制度：　有 ※有の場合、制度内容を記入 滋慶特別奨学金制度：経済的な理由のため修学が困難となった学生を対象に、無利息・無担保で奨学金を付与するもので、卒業後に本人が返納する ■専門実践教育訓練給付：　非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価：　無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体：　受審年月：　評価結果を掲載したホームページＵＲＬ
当該学科のホームページURL	http://www.eco.ac.jp

（留意事項）

1．公表年月日（※1）

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2．就職等の状況（※2）

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて（通知）（25文科生第596号）」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

（1）「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員（雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいいます。

※「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

（2）「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う）。

（3）上記のほか、「就職者数（関連分野）」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3．主な学修成果（※3）

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他（民間検定等）の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果（例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等）について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

（1）教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

教育課程編成委員会においては、非常勤講師以外の業界関係者からの意見を、より詳細に教育内容に反映させることを基本方針とし、次のような取り組みを行っている。企業との連携について、学科の養成目的(学生が卒業時に身についておくべき能力)実現に向け、学校の教職員と業界で活躍している兼任教員(非常勤講師)が、授業科目の開設や授業内容の改善を図るため、年2回の講師会議を開催している。 また、学生の卒業年次においては、非常勤講師以外の業界関係者も招聘し、学生の卒業研究内容を評価してもらう取り組みも行っている。

（2）教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程については、学校関係者評価委員会の意見も踏まえ、毎年5月に開催する教育課程編成委員会において改訂内容を審議し、その内容を踏まえ年末までに学校長が来年度の教育課程の編成方針を決定する。この方針に基づき、教務部長が中心となり、この編成方針を教職員、講師の先生方にも徹底し、各教科のシラバスを作成している。

（3）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年4月1日現在

名　前	所　　属	任期	種別
佐藤　良治	株式会社 福岡動物医療センターグループ 総院長	令和5年4月1日 ～令和7年3月31日（2年）	③
岩田　知彦	株式会社 海の中道海洋生態科学館 副館長	令和5年4月1日 ～令和7年3月31日（2年）	③
坂本　恵理	株式会社 ビースパ マネージャー	令和5年4月1日 ～令和7年3月31日（2年）	③
山本　雅一	合同会社 ZOO CARAVAN 代表	令和5年4月1日 ～令和7年3月31日（2年）	③
山口　響	株式会社 AHB 店舗開発部部長	令和5年4月1日 ～令和7年3月31日（2年）	③
宮﨑　美鈴	福岡ECO動物海洋専門学校	令和5年4月1日 ～令和7年3月31日（2年）	―
黒見　義正	福岡ECO動物海洋専門学校	令和5年4月1日 ～令和7年3月31日（2年）	―
満原　翔一	福岡ECO動物海洋専門学校	令和5年4月1日 ～令和7年3月31日（2年）	―
生野　祐二	福岡ECO動物海洋専門学校	令和5年4月1日 ～令和7年3月31日（2年）	―
村上　弘志	福岡ECO動物海洋専門学校	令和5年4月1日 ～令和7年3月31日（2年）	―
林田　新太郎	福岡ECO動物海洋専門学校	令和5年4月1日 ～令和7年3月31日（2年）	―

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
（当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「－」を記載してください。）
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

（4）教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

（年間の開催数及び開催時期）
年2回 （5月、2月）

（開催日時（実績））
第1回　令和5年5月24日　15:10～16:00
第2回　令和6年2月15日　実施予定

（5）教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

・今後トレーナー、ペットショップ、ブリーダーは法令遵守を守るための動物法規をより指導してほしい。
・学校と現場のギャップが離職に繋がる場合もある。インターンシップなど業界研修は引き続き徹底してほしい。
・トレーニング技術だけではなく、将来独立開業を目指す学生のためのカリキュラムも強化してほしい。
上記3点を改善すべく、動物関連法規についてはオンデマンド教材を作成中。通常授業以外でも振り返り見直すことができるようにする。また、インターンシップについて「研修前ガイダンス」や「卒業生からの話」など年間を通して実施する。独立開業をを目指す学生の為に「ホスピタリティ」や「企業プロジェクト」を授業に組み込んだ。加えて特別講義を定期的に実施して、さらに専門性を強化していく。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本校は、即戦力としての職業人教育を行う為、業界と連携し、専門知識・技術、並びに人間力を持ち合わせた人材の育成に取り組んでおり、特に演習科目においては、現場の第一線で活躍するプロに非常勤講師を依頼するなど、授業内容を業界関係者と共に企画立案・実施し、達成度評価を行うことを基本方針とする。

（2）実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

連携企業等と講師業務委託契約を交わした上で、現場の第一線のプロが非常勤講師として授業を行っている。学校と非常勤講師が協議して作成したシラバスを基に授業は進行され、成績評価は毎授業での到達目標達成度及び学期ごとに行う定期試験の結果をもって総合的に評価される。また、担当非常勤講師と学科専任教員は常に連携を密にし、情報を共有しながら授業運営に係る問題解決や授業改善に協力して取り組んでいる。更に、業界研修等を実施し、企業等の指導担当者の下、現場体験を深め即戦力としての更なる知識・技術の習得に努めている。研修実施前の協議を徹底すると共に、教員による研修先の訪問を通して指導担当者と教員の連携・情報共有を図り、協力体制を強化して教育効果の向上に努めている。

（3）具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科　目　名	科　目　概　要	連　携　企　業　等
ドッグトレーニング演習Ⅰ	JKCの訓練課目を学内犬と共に実践し、犬に対する基本的な指示出しができるようになる。	ランランふぃ～るど
ドッグトレーニング演習Ⅱ	犬の学習プロセスを理解しつつ、犬に対して優しい正の強化を応用したトレーニングを実践できるようになる。	Wan　Life
犬の行動学	犬の身体的特徴やコミュニケーション方法、行動から、生物分類上の「犬」を説明できるようになる。	Hand　in　Paw
犬との暮らし方教室	一般の飼い主から愛犬を預かり、「伝える」力を習得し、トレーニングや飼い主へのアドバイスができるようになる。	犬の学校　SMILE　DOG
ドッグスポーツ演習	プロから一般の愛犬家まで幅広い人気を誇るアジリティを通し、犬との関係構築を実践できるようになる。	JUMP　DOG

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

（1）推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

学園の定める教職員規定において、専門技術・知識の向上、授業内容・教育技法の改善、クラス運営力の向上、マネジメント能力や指導力の向上などを研修の目的として、職歴や能力・経験、職責、担当業務に合わせて、定期的・継続的に業界と連携して研修を実施している。企業・業界団体等が開催する研修会や講師をお招きしての講習会、セミナーに専任教員を計画的に参加させ、業界の変化やニーズを的確に把握すると共に、最新の技術・知識の習得に努めている。

（2）研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：　特殊犬訓練士によるドッグトレーニング　　連携企業等：クレイグ・マレー氏
期間：　2023年7月22日、23日　　対象：全職員
内容　海外における犬とのコミュニケーション及びトレーニング技術について

研修名：　ペット商品商談について　　連携企業等：株式会社森光商店
期間：　2023年7月27日　　対象：ペット系職員、ペット系学生
内容　ペット用品・商品の商談展示場の開催に向けての企画について

研修名：　動物福祉について　　連携企業等：Hand in Paw
期間：　2023年8月25日　　対象：全職員
内容　動物福祉の概念から、動物愛護について

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名：　FDミクロレベル＜クラスマネジメント＞研修　　連携企業等：滋慶教育科学研究所
期間：　2022年5月25日　　対象：エコ・コミュニケーション科教員
内容　滋慶学園における担任の「クラスマネジメント」の定義に共感しクラスマネジメントのポイントを理解し、「実行計画」の作成、修正が出来るようになる。ひとりで「クラス」をささえるのではなく、学生のセーフティーネットが構築できる。

研修名：　FDミクロレベル〈フォローアップ〉研修　　連携企業等：滋慶教育科学研究所
期間：　2022年6月8日　　対象：エコ・コミュニケーション科教員
内容　新入職者FDミクロレベル研修受講後の実際の授業の振り返りを行い、授業改善の工夫ができる。クラスの成長を促すコーチングの基礎を学び、実践することができる。公開授業の実施と参加に向けて準備することができる。

研修名：　教職員カウンセリング研修　　連携企業等：滋慶教育科学研究所
期間：　2022年9月～10月　　対象：エコ・コミュニケーション科教員
内容　滋慶学園グループの全教職員がカウンセリングマインドを身につけ、学生や保護者に対応できるようにスキル向上を目指し資格を取得する。

（3）研修等の計画
①専攻分野における実務に関する研修等

研修名： ペットマッサージ　連携企業等： イノセントランド
期間： 2023年10月28日　対象： ドッグ系職員、ドッグ系学生
内容 ペットマッサージによる効果と実習

研修名： ペット産業業界について　連携企業等： イオンペット株式会社
期間： 2023年11月14日　対象： ドッグ系職員
内容 ペット産業の現状や今後の展開、その中での業界が担う役割について

研修名： 2023FCI九州インターナショナルドッグショー　連携企業等： JKC九州ブロック協議会
期間： 2023年11月19日　対象： ドッグ系職員
内容 約500頭が集まる九州最大のドッグショー。見学することで、質の良い犬を知る機会になる。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名： クラスマネジメント勉強会　連携企業等： 滋慶トータルサポートセンター
期間： 2023年9月13日　対象： エコ・コミュニケーション科教員
内容 対応が難しい学生や、今後どのようにサポートしていけば良いかわからないなど、対応に困っている学生の事例報告を行い、勉強会を実施し。クラスマネジメント力の向上を目的とする。

研修名： マネジメント研修　連携企業等： 滋慶教育科学研究所
期間： 2023年10月17日　対象： エコ・コミュニケーション科教員
内容 学校運営に関する必要な知識の習得並びに、姉妹校の成功事例を学ぶことで、新たな視点で自校の学校運営を考え、在校生・卒業生・教員・講師並びに動物業界にとって、より良い学校になるように反映させる。

研修名： FDミドルレベル研修　連携企業等： 滋慶教育科学研究所
期間： 2023年7月20日　対象： エコ・コミュニケーション科教員
内容 FD研修の目的とその展開を理解し、自学科のスタッフの成長を促進出来る。カリキュラムマネジメントの基礎を学び、自学科のカリキュラム開発の課題発見が出来る。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

（1）学校関係者評価の基本方針
自己点検・評価結果について学校職員以外の関係者による評価を行うため、学校関係者評価委員会を置き、年に1回以上委員会を開催する。評価委員会は、本校教職員が行った自己点検・自己評価の内容を審議・評価することを通じて、学校運営の改善に活かすことを目的とする。評価委員会は、卒業生1名、保護者代表1名、近隣関係者1名、高校関係者1名並びに動物業界関係者5名の合計9名の委員定数で構成され、任期は1年である。毎年5月に開催している。

（2）「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
（1）教育理念・目標	教育理念・目的・育成人材像
（2）学校運営	学校運営
（3）教育活動	教育活動
（4）学修成果	学修成果
（5）学生支援	学生支援
（6）教育環境	教育環境
（7）学生の受入れ募集	学生募集と受け入れ
（8）財務	財務
（9）法令等の遵守	法令等の遵守
（10）社会貢献・地域貢献	社会貢献
（11）国際交流	海外提携校との交流

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）学校関係者評価結果の活用状況
継続的な取り組み（これまでの学校評価を踏まえ継続的に実施している内容）
・学生が心の悩み等で不登校や中途退学になり、修学を断念することが無いよう、学生相談窓口を徒歩3分の場所に設置し専属のカウンセラーを常駐し、心を支える取り組みをしている。
・卒後教育及び再就職サポートを継続的に実施している。

昨年度の評価で指摘された事項で、留意して取り組んでいく事項
・コロナ禍のためオンライン授業が主となった1年であったため、子供たちのモチベーションを維持することが難しいと感じられた。実習等の現場での経験不足をどう補うかが課題である。
・小学校の時期からキャリア教育の重要性が言われており、その集大成の年令になるため、「人間教育」のためのさらなる発展を期待したい。
・資格取得に関してはコロナ禍の影響はあると思うが、合格率向上に努めてほしい。資格取得率が上がることを期待する。

などの多くの意見をいただいた。
これらの意見を踏まえ、各部門で改善できる内容については、事務局長・教務部長・各学科長で協議し、更に教務会議及び全体会議等でこれらの意見をスタッフ全員で共有し、具体的な対策を検討しその実現を図っている。教育内容については、毎年5月に開催する教育課程編成委員会に評価委員会の意見を示し、その審議を踏まえ、年末までに学校長が来年度の教育課程の編成方針を決定する。この方針に基づき、教務部長が中心となり、この編成方針を教職員、講師の先生方にも徹底し、各教科のシラバスを作成している。

（4）学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名　前	所　　属	任期	種別
田中　侑弥	エコ・コミュニケーション科 水族館・アクアリスト専攻　卒業生	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日（1年）	卒業生
田中　飛翔	エコ・コミュニケーション科1年在校生　保護者	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日（1年）	保護者
戎崎　淳一	福岡市大浜公民館　館長	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日（1年）	近隣代表
稲富　勉	福岡県立香椎高等学校　学校長	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日（1年）	高校関係者
佐藤　良治	株式会社 福岡動物医療センターグループ 総院長	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日（1年）	業界委員
岩田　知彦	株式会社 海の中道海洋生態科学館 副館長	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日（1年）	業界委員
坂本　恵理	株式会社 ビースパ マネージャー	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日（1年）	業界委員
山本　雅一	合同会社 ZOO CARAVAN 代表	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日（1年）	業界委員
山口　響	株式会社 AHB 店舗開発部部長	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日（1年）	業界委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
（例）企業等委員、PTA、卒業生等

（5）学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
（ホームページ）・ 広報誌等の刊行物 ・ その他（　　）
URL:　https://www.eco.ac.jp/
公表時期:　令和5年7月1日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

（1）企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針
本校が毎年定める事業計画の実行方針において提起された目標を具体化するために、動物業界の企業等からヒアリングを行い、動物業界の動きを踏まえた実行計画を作成しています。 企業等への具体的な情報提供方法として、業界関係者である兼任教員と教職員との間で講師会議を開催し、授業科目編成や各科目のシラバス等を審議を行い、そこで出たご意

（2）「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
（1）学校の概要、目標及び計画	学校の概要、事業計画、事業報告
（2）各学科等の教育	カリキュラム、学年歴、実習要項、シラバス
（3）教職員	教職員の氏名、略歴等の紹介
（4）キャリア教育・実践的職業教育	カリキュラム、学年歴、実習要項、シラバス
（5）様々な教育活動・教育環境	学校設備紹介等
（6）学生の生活支援	学校相談センターの案内、奨学金申込み案内等
（7）学生納付金・修学支援	授業料及びその他実習費
（8）学校の財務	事業計画、事業報告
（9）学校評価	自己点検、自己評価結果、学校関係者評価結果
（10）国際連携の状況	海外提携校との交流
（11）その他	社会貢献（地域社会と連携した行事）

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）情報提供方法
（ホームページ）・ 広報誌等の刊行物 ・ その他（　　）
URL:　https://www.eco.ac.jp/
公表時期:　令和5年7月1日

授業科目等の概要

	（文化・教養専門課程エコ・コミュニケーション科　ドッグトレーナー専攻）																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			キャリアプランニングⅠ	キャリア教育の一環として、クラスメイト・担任とのコミュニケーションを図り、社会人となる心構えやホスピタリティを理解し、実践できるようになる。	1前後	60	4	○			○		○		
2	○			キャリアプランニングⅡ	将来のキャリア設計を行うと共に、社会人として必要な社会常識や気構え・身構え・心構えなどを発揮できるようになる。	2前後	60	4	○			○		○		
3	○			プレゼンテーションⅠ	人前で話ができるよう自己表現力（人前での話し方）を養い、考えを伝えることができるようになる。	1前後	60	4		○		○			○	
4	○			プレゼンテーションⅡ	就職活動で必要な面接技法や自己PRの仕方、電話応対など、実践的な自己表現力を養い、発揮できるようになる。	2前後	60	4		○		○			○	
5	○			コミュニケーションスキルアップ	良識のある社会人になるために、必要なコミュニケーションを身につけ、就職活動を優位に進めることができるようになる。	1前後	60	4		○		○			○	
6	○			ホスピタリティ	ホスピタリティの基本を理解し、実践することができるようになる。	2後	30	2	○	△		○			○	○
7		○		グローバルコミュニケーション	リスニング・リーディング・スピーキング・ライティングの４技能を総合的に学び、日常生活において平易な会話ができるようになる。	随時	480	32	△	○		○			○	
8	○			コンピュータ演習	ワード・エクセル・パワーポイントなどの基本的な使い方を学び応用・作成ができるようになる。	1前後	60	4		○		○			○	
9	○			デジタルコンテンツ演習	SNSやホームページ、映像などの作成・活用を学び、効果的な表現・発信をすることができる。	1前	30	2		○		○			○	○
10	○			アニマルベーシック	動物業界の仕事に携わるために必要な知識を学ぶ上で、その基礎となる細胞、遺伝子、体の機能を学び、説明できるようになる。	1後	15	1	○			○			○	
11	○			動物の体のしくみ	犬を中心とした基本的な動物の体の構造骨格や生理的な知識を理解し、説明できるようになる。	1後	15	1	○			○			○	
12	○			動物の健康管理	動物を飼育するための飼育管理方法や、病気やその予防法を理解し、説明できるようになる。	1前	15	1	○			○			○	

13	○			動物行動論	エコ・コミュニケーション科　ドッグトレーナー専攻	1前後	60	4	○			○			○	○
14	○			次世代のための環境教育	体験（参加型）学習の指導法理論（人の理解・自然と暮らし文化）に基づき、環境教育の基礎を学び、伝えることができるようになる。	1後	15	1	○			○			○	○
15	○			アニマルヒストリー	民族や宗教、歴史等の観点から人と動物の関わりに関して考え説明できるようになる。	1後	30	2	○			○			○	
16	○			ドッグトレーニング演習Ⅰ	JKCの訓練課目を学内犬と共に実践し、犬に対する基本的な指示出しができるようになる。	1前後	60	4		○		○			○	○
17	○			ドッグトレーニング演習Ⅱ	犬の学習プロセスを理解しつつ、犬に対して優しい正の強化を応用したトレーニングを実践できるようになる。	1前後	120	8		○		○			○	○
18	○			ドッグトレーニング演習Ⅲ	指導手として犬の訓練競技会や試験に対応できるようになる。	2前後	60	4		○		○			○	○
19	○			ドッグトレーニング演習Ⅳ	しつけを人に伝えるカウンセリングスキルを身に付け、人と犬が幸せに暮らす為の提案ができるようになる。	2前後	60	4		○		○			○	○
20	○			犬との暮らし方教室	一般の飼い主から愛犬を預かり、「伝える」力を習得し、トレーニングや飼い主へのアドバイスができるようになる。	2前後	120	8		○		○			○	○
21	○			犬の行動学	犬の身体的特徴やコミュニケーション方法、行動から、生物分類上の「犬」を説明できるようになる。	2前後	60	4	○			○			○	○
22	○			犬の飼養管理	犬を家庭動物として飼育する為に必要な環境や対応を学び、自分の飼養観を持つことができるようになる。	1前後	60	4	○			○			○	○
23	○			コンディショニング	実際にスポーツトレーナーからストレッチやトレーニングを学び、ドッグトレーナーとして健康な心身をつくる。	1前	30	2		○		○			○	
24	○			コンパニオンドッグ	JKCに登録されている犬種を中心に、犬種毎の特徴をトレーニングの際に考慮できるようになる。	1前後	60	4	○			○			○	
25	○			問題行動トレーニング	飼い主から「しつけ」の相談の多い事例を基に、原因や改善策を検討し、飼い主へ伝えることができる。	2前後	60	4		○		○			○	○
26	○			学内犬飼育演習	学内犬それぞれの個体毎に必要な運動やケアを実践できるようになる。	1前後	60	4		○		○			○	
27		○		警察犬トレーニング	訓練競技会での競技科目を理解し、服従訓練や臭気選別訓練を実践できるようになる。	2前後	60	4		○		○			○	○

28		○		補助犬トレーニング	補助犬についての概論から育成、国内の環境に理解を深めつつ、介助犬のトレーニングを実践できるようになる。	2前後	60	4		○		○			○	○
29		○		セラピー犬トレーニング	AAA（動物介在活動）に関わる犬の育成、トレーニングの手法やハンドラーとしての心構えを学び、実践できるようになる。	2前後	60	4		○		○			○	
30	○			動物栄養学	犬の生活に必要な栄養素を学び、体調やライフステージに合わせた食事を検討できるようになる。	2前後	60	4	○			○			○	○
31	○			繁殖と遺伝	犬と猫の生殖器のしくみ、性周期・交配、出産のメカニズムを説明できるようになる。	2前	30	2	○			○			○	○
32	○			ナチュラルケア	犬の心身共に健康な身体作りに必要なケアをホリスティックの観点から学び、考えることができるようになります。	2前	30	2	○			○			○	○
33	○			グルーミング概論	耳そうじ・爪切り・シャンプーなど、犬のお手入れの基本的な美容理論を説明できるようになる。	1前	30	2	○			○			○	○
34	○			グルーミング演習	犬の爪切りや耳掃除、シャンプー等、基本的なお手入れを実践できるようになる。	1後	60	4		○		○			○	○
35	○			人と動物との関係学	犬と人との関係性を、動物福祉や飼い主責任、ペットロスなど様々な観点から考えることができるようになる。	2後	30	2	○			○			○	○
36	○			動物の法律	動物の愛護および管理に関する法律を中心に、動物と暮らす上で知っておくべき法律を説明できるようになる。	2前	30	2	○			○			○	
37	○			ドッグスポーツ演習	プロから一般の愛犬家まで幅広い人気を誇るアジリティを通し、犬との関係構築を実践できるようになる。	2前後	60	4		○		○			○	○
38	○			ディスクドッグ	ディスクドッグ（ドッグスポーツ）を通して、犬とのコミュニケーションやスポーツドッグ育成の基礎を身に付け実践できるようになる。	2前	30	2		○		○			○	
39	○			企業プロジェクト	企業より課題をいただき、プロジェクトを企画・運営まで実践できるようになる。	2前後	120	8		○		○			○	○
40		○		進級課題	学んだ専門知識や技術の集大成として、学習成果が進級に値する実力を修得しているか課題に取り組み、課題の研究発表または実技の披露を行います。	1後	60	4		○		○		○		
41		○		卒業課題	入学以来これまで身につけた専門知識や技術の集大成として、学習の成果が卒業に値する実力を修得しているか評価するために、研究発表または実技の披露を行います。	2後	60	4		○		○		○		
42		○		業界研修	業界現場である各種動物施設で、実際の仕事を体験し、自己研鑽を行います。	随時	60	4		○			○		○	○

43		○		企業課題	企業から課題をいただき、それに取り組むことにより専門知識・技術に磨きをかけます。	随時	15	1		○			○		○	○
44		○		特別講義＆見学	業界で活躍中のプロの方々から豊富な知識・情報を頂く特別授業や施設見学を行います。	随時	15	1		○			○		○	○
45		○		海外実学研修	グローバル化する現代社会で活躍するために、国際性を身につけるための国際教育です。	1後	60	4		○			○		○	○
46		○		アフリカ研修	人類発祥の地アフリカにおいて、人と動物とが良い関係と距離を保ちながら共存する考え方を学ぶと共に、更なるコミュニケーション能力を身につけます。	2後	60	4		○			○		○	○
47		○		海外専門留学	10週間オーストラリアに留学し、さらなる専門知識や技術を修得すると共に、国際人としての語学力と感性を身に付ける事を目的に実施します。	2前後	450	30		○			○		○	○
48		○		語学留学	オーストラリアにて、国際人として必要な語学力とコミュニケーション能力を身につけて行きます。	2前後	135	9		○			○		○	
49		○		イベント運営	学習成果の発表の場としてのイベントを行い、習得した専門知識や技術を実践します。	随時	15	1		○			○	○		
50		○		特別課外活動	学友会活動やクラブ活動を通して、チームワークや企画、運営力を養います。	随時	15	1		○		○		○		
51		○		ボランティア活動	市民社会の形成に貢献するために、ボランティア活動を行います。	随時	30	2		○			○	○		
52		○		資格取得講座	各専攻で学んだ専門知識や技術の、さらなるレベルアップを図るために、検定試験に挑戦し資格取得を目指します。	随時	15	1	○			○			○	
合計					52　科目			1800　単位（単位時間）								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	各年次60単位以上取得し、2年間で120単位以上取得する。これを踏まえ、卒業認定会議で卒業認定されること。	１学年の学期区分	2 期
履修方法：	洗濯必修科目と自由選択科目を履修し、各科目66,7%以上の出席し試験等による60点以上の評定で単位取得する。	１学期の授業期間	15 週

（留意事項）

１　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

２　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

（別紙様式4）

【職業実践専門課程認定後の公表様式】

令和5年7月31日 ※1
（前回公表年月日：令和4年7月31日）

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
福岡ECO動物海洋専門学校	平成16年2月23日	黒見　義正	〒　812-0033 （住所）福岡県福岡市博多区大博町4-16 （電話）092-262-2177
設置者名	**設立認可年月日**	**代表者名**	**所在地**
学校法人滋慶学園	昭和58年12月23日	浮舟　邦彦	〒　134-0084 （住所）東京都江戸川区東葛西6-16-2 （電話）03-2688-6161

分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士
文化・教養	文化・教養専門課程	エコ・コミュニケーション科　総合ペットショップ専攻	平成17年文部科学省告示第176号	－

学科の目的	「職業人教育を通して社会に貢献していく」ことを使命とし、動物・海洋・自然の仕事を通して、人に喜びと感動を与え、動物業界での即戦力となる人材を養成する。
認定年月日	平成26年3月31日

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2　年	昼間	1,800時間	600時間	2550時間	0時間	0時間	0時間 時間

生徒総定員	生徒実員	留学生数（生徒実員の内	専任教員数	兼任教員数	総教員数
160人	122人（内26人）	0人	1人	18人	19人

学期制度	■前期：　4月1日　～　9月30日 ■後期：　10月1日　～　3月31日	成績評価	■成績表：　有 ■成績評価の基準・方法 評価の基準：　・出席率、授業態度と参加度　・臨時及び定期試験の成績　・レポート並びに課題成績　上記項目を総合的に勘案 評価の方法：　4段階評価
長期休み	■学年始：4月1日　～　4月2日 ■夏　季：7月25日　～　8月 20日 ■冬　季：12月26日　～　1月9日 ■学年末：3月2日　～　3月31日	卒業・進級条件	卒業要件： 各年次の合計習得単位が900時間（60単位）以上 進級要件： 3年間合計習得単位が2700時間（180単位）以上
学修支援等	■クラス担任制：　有 ■個別相談・指導等の対応 担任は定期的に個別面談を行うと共に、学生から相談があれば随時個別相談を行っている。 また、長期欠席者への指導については、保護者にも連絡をとり三者面談を実施する。	課外活動	■課外活動の種類 （例）学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 学友会活動の一環として、年間イベントの実施、動物飼育クラブ活動を行っている。 ■サークル活動：　有
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等（令和4年度卒業生） 該当なし ■就職指導内容 ・就職ガイダンス（業界人特別講話、業界研修に向けての取り組み、OB/OGセミナーなど）　・履歴書作成指導　・求人案内　・面接指導、就職筆記試験対策　・学内個別企業説明会、就職模擬面接会　・学内合同企業説明会（学内にて各企業から説明） ■卒業者数　－　人 ■就職希望者数　－　人 ■就職者数　－　人 ■就職率　－　% ■卒業者に占める就職者の割合 ：　－　% ■その他 総合ペットショップ専攻は、令和4年度の卒業生実績なし （令和　4 年度卒業者に関する令和5年5月1日時点の情報）	主な学修成果（資格・検定等）※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 （令和4年度卒業者に関する令和5年5月1日時点の情報） 資格・検定名 / 種別 / 受験者数 / 合格者数 ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他（民間検定等） ■自由記述欄 （例）認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等
中途退学の現状	■中途退学者　0 名　■中退率　0 % 令和4年4月1日時点において、在学者6名（令和4年4月1日入学者を含む） 令和5年3月31日時点において、在学者6名（令和5年3月31日卒業者を含む） ■中途退学の主な理由 該当なし ■中退防止・中退者支援のための取組 ・スクールカウンセラーとの連携を強化 ・動物の仕事のやりがい等を伝えモチベーション維持を図る		
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度：　有 ※有の場合、制度内容を記入 滋慶特別奨学金制度：経済的な理由のため修学が困難となった学生を対象に、無利息・無担保で奨学金を付与するもので、卒業後に本人が返納する ■専門実践教育訓練給付：　非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載		
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価：　無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体：　受審年月：　評価結果を掲載したホームページＵＲＬ		
当該学科のホームページURL	http://www.eco.ac.jp		

（留意事項）

1．公表年月日（※1）

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2．就職等の状況（※2）

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて（通知）（25文科生第596号）」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

（1）「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員（雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいいます。

※「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

（2）「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う）。

（3）上記のほか、「就職者数（関連分野）」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3．主な学修成果（※3）

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他（民間検定等）の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果（例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等）について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

（1）教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

教育課程編成委員会においては、非常勤講師以外の業界関係者からの意見を、より詳細に教育内容に反映させることを基本方針とし、次のような取り組みを行っている。企業との連携について、学科の養成目的(学生が卒業時に身についておくべき能力)実現に向け、学校の教職員と業界で活躍している兼任教員(非常勤講師)が、授業科目の開設や授業内容の改善を図るため、年2回の講師会議を開催している。 また、学生の卒業年次においては、非常勤講師以外の業界関係者も招聘し、学生の卒業研究内容を評価してもらう取り組みも行っている。

（2）教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程については、学校関係者評価委員会の意見も踏まえ、毎年5～6月頃開催する教育課程編成委員会において改訂内容を審議し、その内容を踏まえ年末までに学校長が来年度の教育課程の編成方針を決定する。この方針に基づき、教務部長が中心となり、この編成方針を教職員、講師の先生方にも徹底し、各教科のシラバスを作成している。

（3）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年4月1日現在

名　前	所　　属	任期	種別
佐藤　良治	株式会社 福岡動物医療センターグループ 総院長	令和5年4月1日 ～令和7年3月31日（2年）	③
岩田　知彦	株式会社 海の中道海洋生態科学館 副館長	令和5年4月1日 ～令和7年3月31日（2年）	③
坂本　恵理	株式会社 ビースパ マネージャー	令和5年4月1日 ～令和7年3月31日（2年）	③
山本　雅一	合同会社 ZOO CARAVAN 代表	令和5年4月1日 ～令和7年3月31日（2年）	③
山口　響	株式会社 AHB 店舗開発部部長	令和5年4月1日 ～令和7年3月31日（2年）	③
宮﨑　美鈴	福岡ECO動物海洋専門学校	令和5年4月1日 ～令和7年3月31日（2年）	ー
黒見　義正	福岡ECO動物海洋専門学校	令和5年4月1日 ～令和7年3月31日（2年）	ー
満原　翔一	福岡ECO動物海洋専門学校	令和5年4月1日 ～令和7年3月31日（2年）	ー
生野　祐二	福岡ECO動物海洋専門学校	令和5年4月1日 ～令和7年3月31日（2年）	ー
村上　弘志	福岡ECO動物海洋専門学校	令和5年4月1日 ～令和7年3月31日（2年）	ー
林田　新太郎	福岡ECO動物海洋専門学校	令和5年4月1日 ～令和7年3月31日（2年）	ー

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

（当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「ー」を記載してください。）

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

（4）教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

（年間の開催数及び開催時期）

年2回 （5月、2月）

（開催日時（実績））

第1回　令和5年5月24日　15:10～16:00

第2回　令和6年2月15日　実施予定

（5）教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

・今後トレーナー、ペットショップ、ブリーダーは法令遵守を守るための動物法規をより指導してほしい。

・学校と現場のギャップが離職に繋がる場合もある。インターンシップなど業界研修は引き続き徹底してほしい。

・トレーニング技術だけではなく、将来独立開業を目指す学生のためのカリキュラムも強化してほしい。

これらの意見より、関連法規授業のオンデマンド教材や、ショップ経営理論やマネジメントを身に付ける授業を取り入れ、より現場で求められる知識を学べる環境を整えていく。他にも「仕事に対する身構え・気構え・心構えといったプロ意識の確立」「社会的人格形成」「自主性・主体性・積極性の育成」「仕事観・職業観の確立による早期退職の防止」「基礎力と柔軟な応用力の育成」など授業の改善に取り組んでいる。独立開業をを目指す学生の為に「ホスピタリティ」や「企業プロジェクト」を授業に組み込んだ。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本校は、即戦力としての職業人教育を行う為、業界と連携し、専門知識・技術、並びに人間力を持ち合わせた人材の育成に取り組んでおり、特に演習科目においては、現場の第一線で活躍するプロに非常勤講師を依頼するなど、授業内容を業界関係者と共に企画立案・実施し、達成度評価を行うことを基本方針とする。

（2）実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

連携企業等と講師業務委託契約を交わした上で、現場の第一線のプロが非常勤講師として授業を行っている。学校と非常勤講師が協議して作成したシラバスを基に授業は進行され、成績評価は毎授業での到達目標達成度及び学期ごとに行う定期試験の結果をもって総合的に評価される。また、担当非常勤講師と学科専任教員は常に連携を密にし、情報を共有しながら授業運営に係る問題解決や授業改善に協力して取り組んでいる。更に、業界研修等を実施し、企業等の指導担当者の下、現場体験を深め即戦力としての更なる知識・技術の習得に努めている。研修実施前の協議を徹底すると共に、教員による研修先の訪問を通して指導担当者と教員の連携・情報共有を図り、協力体制を強化して教育効果の向上に努めている。

（3）具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科　目　名	科　目　概　要	連　携　企　業　等
ショップ経営理論	ペットショップにおける運営、経営、流通、集客、マーケティングに関するマネジメントの理論を学ぶ。	Garden&Exterior ARIAKE
ペットショップマネジメント	ペットショップにおける運営、経営に関するマネジメントについて学び、商品の流通や店舗管理等経営者としての考えを理解、実践できるようになる。	有限会社上妻商会
ホスピタリティ	ホスピタリティの基本を理解し、実践することができるようになる。	有限会社セレーノ・コーポレーション
観賞魚研究Ⅰ	淡水に生息する生物を飼育する上で必要な、水質管理および浄化システムについて講義形式で学び、水槽管理ができるようになる。	aqua shop D-aquarium
水生生物飼育管理Ⅰ	淡水に生息する生物を飼育する上で必要な、水質管理および浄化システムについて演習形式で学び、水槽管理ができるようになる。	aqua shop D-aquarium

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

（1）推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

学園の定める教職員規定において、専門技術・知識の向上、授業内容・教育技法の改善、クラス運営力の向上、マネジメント能力や指導力の向上などを研修の目的として、職歴や能力・経験、職責、担当業務に合わせて、定期的・継続的に業界と連携して研修を実施している。企業・業界団体等が開催する研修会や講師をお招きしての講習会、セミナーに専任教員を計画的に参加させ、業界の変化やニーズを的確に把握すると共に、最新の技術・知識の習得に努めている。

（2）研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：　特殊犬訓練士によるドッグトレーニング　　連携企業等：クレイグ・マレー氏
期間：　2023年7月22日、23日　　対象：全職員
内容　海外における犬とのコミュニケーション及びトレーニング技術について

研修名：　ペット商品商談について　　連携企業等：株式会社森光商店
期間：　2023年7月27日　　対象：ペット系職員、ペット系学生
内容　ペット用品・商品の商談展示場の開催に向けての企画について

研修名：　動物福祉について　　連携企業等：Hand in Paw
期間：　2023年8月25日　　対象：全職員
内容　動物福祉の概念から、動物愛護について

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名：　FDミクロレベル＜クラスマネジメント＞研修　　連携企業等：滋慶教育科学研究所
期間：　2022年5月25日　　対象：エコ・コミュニケーション科教員
内容　滋慶学園における担任の「クラスマネジメント」の定義に共感しクラスマネジメントのポイントを理解し、「実行計画」の作成、修正が出来るようになる。ひとりで「クラス」をささえるのではなく、学生のセーフティーネットが構築できる。

研修名：　FDミクロレベル〈フォローアップ〉研修　　連携企業等：滋慶教育科学研究所
期間：　2022年6月8日　　対象：エコ・コミュニケーション科教員
内容　新入職者FDミクロレベル研修受講後の実際の授業の振り返りを行い、授業改善の工夫ができる。クラスの成長を促すコーチングの基礎を学び、実践することができる。公開授業の実施と参加に向けて準備することができる。

研修名：　教職員カウンセリング研修　　連携企業等：滋慶教育科学研究所
期間：　2022年9月～10月　　対象：エコ・コミュニケーション科教員
内容　滋慶学園グループの全教職員がカウンセリングマインドを身につけ、学生や保護者に対応できるようにスキル向上を目指し資格を取得する。

（3）研修等の計画
①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：	ペットマッサージ	連携企業等：	イノセントランド
期間：	2023年10月28日	対象：	ペット系職員
内容	ペットマッサージによる効果と実習		
研修名：	ペット産業業界について	連携企業等：	イオンペット株式会社
期間：	2023年11月14日	対象：	ペット系職員
内容	ペット産業の現状や今後の展開、その中での業界が担う役割について		
研修名：	2023FCI九州インターナショナルドッグショー	連携企業等：	JKC九州ブロック協議会
期間：	2023年11月19日	対象：	ペット系職員
内容	約500頭が集まる九州最大のドッグショー。見学することで、質の良い犬を知る機会になる。		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名：	クラスマネジメント勉強会	連携企業等：	滋慶トータルサポートセンター
期間：	2023年9月13日	対象：	エコ・コミュニケーション科教員
内容	対応が難しい学生や、今後どのようにサポートしていけば良いかわからないなど、対応に困っている学生の事例報告を行い、勉強会を実施し。クラスマネジメント力の向上を目的とする。		
研修名：	マネジメント研修	連携企業等：	滋慶教育科学研究所
期間：	2023年10月17日	対象：	エコ・コミュニケーション科教員
内容	学校運営に関する必要な知識の習得並びに、姉妹校の成功事例を学ぶことで、新たな視点で自校の学校運営を考え、在校生・卒業生・教員・講師並びに動物業界にとって、より良い学校になるように反映させる。		
研修名：	FDミドルレベル研修	連携企業等：	滋慶教育科学研究所
期間：	2023年7月20日	対象：	エコ・コミュニケーション科教員
内容	FD研修の目的とその展開を理解し、自学科のスタッフの成長を促進出来る。カリキュラムマネジメントの基礎を学び、自学科のカリキュラム開発の課題発見が出来る。		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

（1）学校関係者評価の基本方針
自己点検・評価結果について学校職員以外の関係者による評価を行うため、学校関係者評価委員会を置き、年に1回以上委員会を開催する。評価委員会は、本校教職員が行った自己点検・自己評価の内容を審議・評価することを通じて、学校運営の改善に活かすことを目的とする。評価委員は、卒業生1名、保護者代表1名、近隣関係者1名、高校関係者1名並びに動物業界関係者4名の合計8名の委員定数で構成され、任期は1年である。毎年5～6月の間に開催している。

（2）「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
（1）教育理念・目標	教育理念・目的・育成人材像
（2）学校運営	学校運営
（3）教育活動	教育活動
（4）学修成果	学修成果
（5）学生支援	学生支援
（6）教育環境	教育環境
（7）学生の受入れ募集	学生募集と受け入れ
（8）財務	財務
（9）法令等の遵守	法令等の遵守
（10）社会貢献・地域貢献	社会貢献
（11）国際交流	海外提携校との交流

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）学校関係者評価結果の活用状況
継続的な取り組み（これまでの学校評価を踏まえ継続的に実施している内容）
・学生が心の悩み等で不登校や中途退学になり、修学を断念することが無いよう、学生相談窓口を徒歩3分の場所に設置し専属のカウンセラーを常駐し、心を支える取り組みをしている。
・卒後教育及び再就職サポートを継続的に実施している。

昨年度の評価で指摘された事項で、留意して取り組んでいく事項
・コロナ禍のためオンライン授業が主となった1年であったため、子供たちのモチベーションを維持することが難しいと感じられた。実習等の現場での経験不足をどう補うかが課題である。
・小学校の時期からキャリア教育の重要性が言われており、その集大成の年令になるため、「人間教育」のためのさらなる発展を期待したい。
・資格取得に関してはコロナ禍の影響はあると思うが、合格率向上に努めてほしい。資格取得率が上がることを期待する。

などの多くの意見をいただいた。
これらの意見を踏まえ、各部門で改善できる内容については、事務局長・教務部長・各学科長で協議し、更に教務会議及び全体会議等でこれらの意見をスタッフ全員で共有し、具体的な対策を検討しその実現を図っている。教育内容については、毎年5月に開催する教育課程編成委員会に評価委員会の意見を示し、その審議を踏まえ、年末までに学校長が来年度の教育課程の編成方針を決定する。この方針に基づき、教務部長が中心となり、この編成方針を教職員、講師の先生方にも徹底し、各教科のシラバスを作成している。

（4）学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名　前	所　　属	任期	種別
佐藤　良治	株式会社 福岡動物医療センターグループ 総院長	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日（1年）	業界委員
岩田　知彦	株式会社 海の中道海洋生態科学館 副館長	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日（1年）	業界委員
坂本　恵理	株式会社 ビースパ マネージャー	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日（1年）	業界委員
山本　雅一	合同会社 ZOO CARAVAN 代表	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日（1年）	業界委員
稲富　勉	福岡県立香椎高等学校　学校長	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日（1年）	高校関係者
戎﨑　淳一	福岡市大浜公民館　館長	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日（1年）	近隣代表
田中　侑弥	エコ・コミュニケーション科 水族館・アクアリスト専攻　卒業生	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日（1年）	卒業生
田中　飛翔	エコ・コミュニケーション科1年在校生　保護者	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日（1年）	保護者
山口　響	株式会社 AHB 店舗開発部部長	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日（1年）	業界委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
（例）企業等委員、PTA、卒業生等

（5）学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
（ホームページ）・ 広報誌等の刊行物 ・ その他（　　）
URL:　https://www.eco.ac.jp/
公表時期:　令和5年7月1日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

（1）企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針
本校が毎年定める事業計画の実行方針において提起された目標を具体化するために、動物業界の企業等からヒアリングを行い、動物業界の動きを踏まえた実行計画を作成しています。 企業等への具体的な情報提供方法として、業界関係者である兼任教員と教職員との間で講師会議を開催し、授業科目編成や各科目のシラバス等を審議を行い、そこで出たご意見を反映させることを基本方針とする。

（2）「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
（1）学校の概要、目標及び計画	学校の概要、事業計画、事業報告
（2）各学科等の教育	カリキュラム、学年歴、実習要項、シラバス
（3）教職員	教職員の氏名、略歴等の紹介
（4）キャリア教育・実践的職業教育	カリキュラム、学年歴、実習要項、シラバス
（5）様々な教育活動・教育環境	学校設備紹介等
（6）学生の生活支援	学校相談センターの案内、奨学金申込み案内等
（7）学生納付金・修学支援	授業料及びその他実習費
（8）学校の財務	事業計画、事業報告
（9）学校評価	自己点検、自己評価結果、学校関係者評価結果
（10）国際連携の状況	海外提携校との交流
（11）その他	社会貢献（地域社会と連携した行事）

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）情報提供方法
（ホームページ）・ 広報誌等の刊行物 ・ その他（　　）
URL:　https://www.eco.ac.jp/
公表時期:　令和5年7月1日

授業科目等の概要

	（文化・教養専門課程エコ・コミュニケーション科　総合ペットショップ専攻）																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			キャリアプランニングⅠ	キャリア教育の一環として、クラスメイト・担任とのコミュニケーションを図り、社会人となる心構えやホスピタリティを理解し、実践できるようになる。	1前後	60	4	○			○		○		
2	○			キャリアプランニングⅡ	将来のキャリア設計を行うと共に、社会人として必要な社会常識や気構え・身構え・心構えなどを発揮できるようになる。	2前後	60	4	○			○		○		
3	○			プレゼンテーション	人前で話ができるよう自己表現力（人前での話し方）を養い、考えを伝えることができるようになる。	2前後	60	4		○		○			○	
4	○			コミュニケーションスキルアップ	良識のある社会人になるために、必要なコミュニケーションを身につけ、就職活動を優位に進めることができるようになる。	1前後	60	4		○		○			○	○
5	○			ホスピタリティ	ホスピタリティの基本を理解し、実践することができるようになる。	1前後	60	4	○	△		○			○	○
6	○			キャリアサポートアップ	履歴書、面接など就職活動に必須となるスキルについて、就職担当者より学び、実践できるようになる。	2前	30	2		○		○			○	○
7	○			社会人基礎力	職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力を学び、自らのキャリアを切り開いていく能力を身に付ける。		30	2		○		○			○	
8		○		グローバルコミュニケーション	リスニング・リーディング・スピーキング・ライティングの4技能を総合的に学び、日常生活について平易な会話ができるようになる。	随時	480	32	△	○		○			○	
9	○			コンピュータ演習	ワード・エクセル・パワーポイントなどの基本的な使い方を学び応用・作成ができるようになる。	1前後	60	4		○		○			○	
10	○			デジタルコンテンツ	動画や写真などを撮影、編集し、HPやSNSで情報の発信や収集ができる技術を習得する。	2前後	60	4		○		○			○	○
11	○			アニマルベーシック	動物業界の仕事に携わるために必要な知識を学ぶ上で、その基礎となる細胞、遺伝子、体の機能を学び、説明できるようになる。	1前	15	1	○			○			○	○
12	○			動物の体のしくみ	犬や猫、小動物を中心とした基本的な動物の体の構造骨格や生理的な知識を学び、説明ができるようになる。	1後	15	1	○			○			○	

13	○			動物の健康管理	動物を飼育するための飼育管理方法や、病気やその予防法を学び説明できるようになる。	1後	15	1	○			○			○	
14	○			アニマルヒストリー	民族や宗教、歴史等の観点から人と動物の関わりに関して考え説明できるようになる。	1前	15	1	○			○			○	
15	○			次世代のための環境教育	体験型学習の指導法理論（人の理解・自然と暮らす文化）に基づき、環境教育の基礎を学び、伝えることができるようになる。	2前後	60	4	○			○			○	○
16	○			コンパニオンドッグ	JKCに登録されている犬種を中心に、歴史から犬体、犬種の特徴などを学ぶ。	1前後	60	4	○			○			○	
17	○			コンパニオンキャット	猫の歴史から猫体、習性、飼育管理法や、スタンダード、キャットショーなど幅広く猫について学ぶ。	2後	30	2	○			○			○	
18	○			エキゾチックアニマル	小動物の生態、行動、飼育管理法について学び、理解し、お客様に説明できるようになる。	1前	30	2	○			○			○	○
19	○			両生爬虫類	両生類と爬虫類の生態、行動から飼育管理する上での必要な知識と技術を学ぶ。	1後	30	2	○			○			○	○
20	○			観賞魚研究Ⅰ	淡水に生息する生物を飼育する上で必要な、水質管理および浄化システムについて講義形式で学び、水槽管理ができるようになる。	1前後	60	4		○		○			○	○
21	○			観賞魚研究Ⅱ	海水に生息する生物を飼育する上で必要な、水質管理および浄化システムについて講義形式で学び、水槽管理ができるようになる。	2前後	60	4		○		○			○	○
22	○			動物の繁殖	エキゾチックアニマルを中心に、繁殖に関するメカニズムや繁殖行動について理解し、説明できるようになる。	2前	30	2	○			○			○	
23	○			小動物飼育演習Ⅰ	学内にいる小動物を中心に実際の清掃から調餌、給餌、健康管理まで基本的な飼育管理ができるようになる。	1前後	120	8		○		○			○	
24	○			小動物飼育演習Ⅱ	1年次に身に付けた様々な小動物の飼育管理技術を更に質を上げ、人に伝えることができるようになる。	2前後	120	8		○		○			○	
25	○			水生生物飼育管理Ⅰ	淡水に生息する生物を飼育する上で必要な、水質管理および浄化システムについて演習形式で学び、水槽管理ができるようになる。	1前後	120	8		○		○			○	○
26	○			水生生物飼育管理Ⅱ	海水に生息する生物を飼育する上で必要な、水質管理および浄化システムについて演習形式で学び、水槽管理ができるようになる。	2前後	120	8		○		○			○	○
27	○			POPデザイン	ペットショップで必要な販促広告であるPOPデザインを基礎から応用まで学び、習得する。	1前後	60	4		○		○			○	

28	○			ショップ経営理論	ペットショップにおける運営、経営、流通、集客、マーケティングに関するマネジメントの理論を学ぶ。	1前後	60	4	○			○			○	○
29	○			ペットショップマネジメント	ペットショップにおける運営、経営に関するマネジメントについて学び、商品の流通や店舗管理等経営者としての考えを理解、実践できるようになる。	2前後	120	8	○			○			○	○
30	○			進級課題	学んだ専門知識や技術の集大成として、学習成果が進級に値する実力を修得しているか課題に取り組み、課題の研究発表または実技の披露を行います。	1後	60	4		○		○		○		
31	○			卒業課題	入学以来これまで身につけた専門知識や技術の集大成として、学習の成果が卒業に値する実力を修得しているか評価するために、研究発表または実技の披露を行います。	2後	60	4		○		○	○	○		
32		○		業界研修	業界現場である各種動物施設で、実際の仕事を体験し、自己研鑽を行います。	随時	180	12		○			○		○	○
33		○		特別講義＆見学	業界で活躍中のプロの方々から豊富な知識・情報を頂く特別授業や施設見学を行います。	随時	30	2		○		○	○		○	○
34		○		海外実学研修	グローバル化する現代社会で活躍するために、国際性を身につけるための国際教育です。	1後	60	4		○			○		○	
35		○		海外専門留学	10週間のオーストラリアに留学し、更なる専門知識や技術を習得すると共に、国際人としての語学力と感性を身に付ける事を目的に実施しています。	随時	450	30		○			○		○	
36		○		イベント運営	学習成果の発表の場としてのイベントを行い、習得した専門知識や技術を実践します。	随時	30	2		○			○	○		
37		○		特別課外活動	学友会活動やクラブ活動を通して、チームワークや企画、運営力を養います。	随時	30	2		○		○		○		
38		○		ボランティア活動	市民社会の形成に貢献するために、ボランティア活動を行います。	随時	30	2		○		○	○	○		
39		○		資格取得講座	各専攻で学んだ専門知識や技術の、さらなるレベルアップを図るために、検定試験に挑戦し資格取得を目指します。	随時	30	2		○		○		○		
40		○		内定者研修	就職内定者を対象に、現場力を身につけるために実践的な研修を行ない、卒業時には即戦力として活躍できるようになる。	2後	90	6		○			○		○	○
41		○		特別研究課題	就職内定者を対象に、就職先よりレベルの高い研究課題をいただき、この課題に取り組むことにより実力がつき、これまで身につけた専門知識を総合的に発揮できるようになる。	2後	180	12		○			○		○	○
42		○		卒業企業課題	就職内定者を対象に、就職先より企業課題をいただき、この課題に取り組むことにより実力がつき、これまで身につけた専門知識を総合的に発揮できるようになる。	2後	180	12		○			○		○	○
合計					42 科目			1800 単位（単位時間）								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	各年次60単位以上取得し、2年間で120単位以上取得する。これを踏まえ、卒業認定会議で卒業認定されること。	１学年の学期区分	2 期
履修方法：	洗濯必修科目と自由選択科目を履修し、各科目66,7%以上の出席し試験等による60点以上の評定で単位取得する。	１学期の授業期間	15 週

（留意事項）

１　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について〇を付し、その他の方法について△を付すこと。

２　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について〇を付すこと。

（別紙様式4）

【職業実践専門課程認定後の公表様式】

令和5年7月31日 ※1
（前回公表年月日：令和4年7月31日）

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
福岡ECO動物海洋専門学校	平成16年2月23日	黒見　義正	〒　812-0033 （住所）福岡県福岡市博多区大博町4-16 （電話）092-262-2177
設置者名	**設立認可年月日**	**代表者名**	**所在地**
学校法人滋慶学園	昭和58年12月23日	浮舟　邦彦	〒　134-0084 （住所）東京都江戸川区東葛西6-16-2 （電話）03-5878-3311，03-6808-3201

分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士
文化・教養	文化・教養専門課程	エコ・コミュニケーション科　ドルフィントレーナー専攻	平成17年文部科学省告示第176号	－

学科の目的	「職業人教育を通して社会に貢献していく」ことを使命とし、動物・海洋・自然の仕事を通して、人に喜びと感動を与え、動物業界での即戦力となる人材を養成する。
認定年月日	平成26年3月31日

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2　年	昼間	1,800時間	870時間	2.910時間	0時間	0時間	0時間 時間

生徒総定員	生徒実員	留学生数（生徒実員の内	専任教員数	兼任教員数	総教員数
160人	122人（内59人）	0人	2人	21人	23人

学期制度	■前期：　4月1日　～　9月30日 ■後期：　10月1日　～　3月31日	成績評価	■成績表：　有 ■成績評価の基準・方法 評価の基準：　・出席率、授業態度と参加度　・臨時及び定期試験の成績　・レポート並びに課題成績　上記項目を総合的に勘案 評価の方法：　4段階評価
長期休み	■学年始：4月1日　～　4月2日 ■夏　季：7月25日　～　8月 20日 ■冬　季：12月26日　～　1月9日 ■学年末：3月2日　～　3月31日	卒業・進級条件	卒業要件： 各年次の合計習得単位が900時間（60単位）以上 進級要件： 2年間合計習得単位が1800時間（120単位）以上
学修支援等	■クラス担任制：　有 ■個別相談・指導等の対応 担任は定期的に個別面談を行うと共に、学生から相談があれば随時個別相談を行っている。 また、長期欠席者への指導については、保護者にも連絡をとり三者面談を実施する。	課外活動	■課外活動の種類 （例）学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 学友会活動の一環として、年間イベントの実施、動物飼育クラブ活動を行っている。 ■サークル活動：　有
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等（令和4年度卒業生） 水族館、ダイビングショップ、 総合ペットショップ、海洋レジャー施設他 ■就職指導内容 ・就職ガイダンス（業界人特別講話、業界研修に向けての取り組み、OB/OGセミナーなど）　・履歴書作成指導　・求人案内　・面接指導、就職筆記試験対策　・学内個別企業説明会、就職模擬面接会　・学内合同企業説明会（学内にて各企業から説明） ■卒業者数　21　人 ■就職希望者数　21　人 ■就職者数　20　人 ■就職率　95.23　% ■卒業者に占める就職者の割合 ：　95.23　% ■その他 （令和　4 年度卒業者に関する令和５年５月1日時点の情報）	主な学修成果（資格・検定等）※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 （令和4年度卒業者に関する令和5年5月1日時点の情報） 資格・検定名 / 種別 / 受験者数 / 合格者数 コミュニケーションスキルアップ検定 / ③ / 20人 / 20人 潜水士 / ① / 16人 / 11人 小型船舶操縦士 / ① / 20人 / 20人 PACI / ③ / 20人 / 20人 PADIダイビングCカード / ③ / 17人 / 17人 アクシュエイト・ホスピタリティ / ③ / 14人 / 14人 Microsoft Azure Az Fundamentals / ③ / 20人 / 1人 ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他（民間検定等） ■自由記述欄 （例）認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等
中途退学の現状	■中途退学者　5 名　■中退率　9 % 令和4年4月1日時点において、在学者55名（令和4年4月1日入学者を含む） 令和5年3月31日時点において、在学者50名（令和5年3月31日卒業者を含む） ■中途退学の主な理由 進路変更、精神面の課題及び経済的理由 ■中退防止・中退者支援のための取組 ・スクールカウンセラーとの連携を強化 ・動物の仕事のやりがい等を伝えモチベーション維持を図る		
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度：　有 ※有の場合、制度内容を記入 滋慶特別奨学金制度：経済的な理由のため修学が困難となった学生を対象に、無利息・無担保で奨学金を付与するもので、卒業後に本人が返還する ■専門実践教育訓練給付：　非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載		
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価：　無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体：　受審年月：　評価結果を掲載したホームページＵＲＬ		
当該学科のホームページURL	http://www.eco.ac.jp		

（留意事項）

1．公表年月日（※1）

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2．就職等の状況（※2）

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて（通知）（25文科生第596号）」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

（1）「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員（雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいいます。

※「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

（2）「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う）。

（3）上記のほか、「就職者数（関連分野）」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3．主な学修成果（※3）

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他（民間検定等）の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果（例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等）について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

（1）教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

教育課程編成委員会においては、非常勤講師以外の業界関係者からの意見を、より詳細に教育内容に反映させることを基本方針とし、次のような取り組みを行っている。企業との連携について、学科の養成目的(学生が卒業時に身についておくべき能力)実現に向け、学校の教職員と業界で活躍している兼任教員(非常勤講師)が、授業科目の開設や授業内容の改善を図るため、年2回の講師会議を開催している。 また、学生の卒業年次においては、非常勤講師以外の業界関係者も招聘し、学生の卒業研究内容を評価してもらう取り組みも行っている。

（2）教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程については、学校関係者評価委員会の意見も踏まえ、毎年5月に開催する教育課程編成委員会において改訂内容を審議し、その内容を踏まえ年末までに学校長が来年度の教育課程の編成方針を決定する。この方針に基づき、教務部長が中心となり、この編成方針を教職員、講師の先生方にも徹底し、各教科のシラバスを作成している。

（3）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年4月1日現在

名　前	所　　属	任期	種別
佐藤　良治	株式会社 福岡動物医療センターグループ 総院長	令和5年4月1日 ～令和7年3月31日（2年）	③
岩田　知彦	株式会社 海の中道海洋生態科学館 副館長	令和5年4月1日 ～令和7年3月31日（2年）	③
坂本　恵理	株式会社 ビースパ マネージャー	令和5年4月1日 ～令和7年3月31日（2年）	③
山本　雅一	合同会社 ZOO CARAVAN 代表	令和5年4月1日 ～令和7年3月31日（2年）	③
山口　響	株式会社 AHB 店舗開発部部長	令和5年4月1日 ～令和7年3月31日（2年）	③
宮﨑　美鈴	福岡ECO動物海洋専門学校	令和5年4月1日 ～令和7年3月31日（2年）	ー
黒見　義正	福岡ECO動物海洋専門学校	令和5年4月1日 ～令和7年3月31日（2年）	ー
満原　翔一	福岡ECO動物海洋専門学校	令和5年4月1日 ～令和7年3月31日（2年）	ー
生野　祐二	福岡ECO動物海洋専門学校	令和5年4月1日 ～令和7年3月31日（2年）	ー
村上　弘志	福岡ECO動物海洋専門学校	令和5年4月1日 ～令和7年3月31日（2年）	ー
林田　新太郎	福岡ECO動物海洋専門学校	令和5年4月1日 ～令和7年3月31日（2年）	ー

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

（当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「ー」を記載してください。）

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

（4）教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

（年間の開催数及び開催時期）

年2回 （5月、2月）

（開催日時（実績））

第1回　令和5年5月24日　15:10～16:00

第2回　令和6年2月15日　実施予定

（5）教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

学内にてイルカの飼育が環境的に難しいため、他専攻に比べ実習授業が少ないためその改善として、海外でもドルフィントレーニングの実績のある講師に変更し、現地で学習する機会を多く設けるため、施設見学を増やした。他にも海岸環境維持と域外環境保全活動を通し、海洋ごみ及び自然環境がもたらす生物への影響について深く考え生物保護活動を行う事が出来るようになるための授業も新しく取り入れた。また、学科・専攻を問わず共通した意見として、各委員からは、「仕事に対する身構え・気構え・心構えといったプロ意識の確立」「社会的人格形成」「自主性・主体性・積極性の育成」「仕事観・職業観の確立による早期退職の防止」「基礎力と柔軟な応用力の育成」など、多くの意見を頂いた。これらを基に、授業内容・方法の改善を図ると共に、授業以外の教科指導、実習指導、生活指導、就職指導等あらゆる機会をとらえて、キャリア教育の充実に向けた検討・環境整備に取り組んでいる。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本校は、即戦力としての職業人教育を行う為、業界と連携し、専門知識・技術、並びに人間力を持ち合わせた人材の育成に取り組んでおり、特に演習科目においては、現場の第一線で活躍するプロに非常勤講師を依頼するなど、授業内容を業界関係者と共に企画立案・実施し、達成度評価を行うことを基本方針とする。

（2）実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

連携企業等と講師業務委託契約を交わした上で、現場の第一線のプロが非常勤講師として授業を行っている。学校と非常勤講師が協議して作成したシラバスを基に授業は進行され、成績評価は毎授業での到達目標達成度及び学期ごとに行う定期試験の結果をもって総合的に評価される。また、担当非常勤講師と学科専任教員は常に連携を密にし、情報を共有しながら授業運営に係る問題解決や授業改善に協力して取り組んでいる。更に、業界研修等を実施し、企業等の指導担当者の下、現場体験を深め即戦力としての更なる知識・技術の習得に努めている。研修実施前の協議を徹底すると共に、教員による研修先の訪問を通して指導担当者と教員の連携・情報共有を図り、協力体制を強化して教育効果の向上に努めている。

（3）具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科　目　名	科　目　概　要	連　携　企　業　等
水族館研究	水族館の役割、歴史や飼育業務について学び、これからの水族館について考え、伝えることができるようになる。	（株）海の中道海洋生態科学館
インタープリテーション養成講座	海洋生物をテーマとし、環境教育やガイドについて学び、インタープリターとして必要な知識を身に付け、伝えることができるようになる。	NPO法人　PACI
ダイビング演習	PADIダイビングライセンス取得を目指します。限定的な範囲の水中を対象に、水中の生物観察・調査が安全に行える潜水・潜行技術を身に付けることができるようになる。	有限会社　ジェイ・ケイDIVE ESUCH
潜水士対策講座	国家資格「潜水士」の合格できるようになる。	有限会社　ジェイ・ケイDIVE ESUCH
船舶免許対策講座2級・特殊	広い水域での生物探査・観察ができるようになるために必要な動力船に対する知識を学び小型船舶操縦士2級免許取得をする。	株式会社　ボート免許センター

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

（1）推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

学園の定める教職員規定において、専門技術・知識の向上、授業内容・教育技法の改善、クラス運営力の向上、マネジメント能力や指導力の向上などを研修の目的として、職歴や能力・経験、職責、担当業務に合わせて、定期的・継続的に業界と連携して研修を実施している。企業・業界団体等が開催する研修会や講師をお招きしての講習会、セミナーに専任教員を計画的に参加させ、業界の変化やニーズを的確に把握すると共に、最新の技術・知識の習得に努めている。

（2）研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：　野生のイルカ調査について　　連携企業等：天草イルカ調査室
期間：　2023年5月31日　　対象：エコ・コミュニケーション科教員
内容　天草周辺を回遊する野生のイルカの調査や研究について

研修名：　プロの仕事とは　　連携企業等：江戸家猫八氏
期間：　2023年6月13日　　対象：全職員
内容　業界のプロとなるための心構えと動物の行動・習性、観客へ伝えるプレゼン力について

研修名：　動物福祉について　　連携企業等：Hand in Paw
期間：　2023年8月25日　　対象：全職員
内容　動物福祉の概念から、動物愛護について

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名：　FDミクロレベル＜クラスマネジメント＞研修　　連携企業等：滋慶教育科学研究所
期間：　2022年5月25日　　対象：エコ・コミュニケーション科教員
内容　滋慶学園における担任の「クラスマネジメント」の定義に共感しクラスマネジメントのポイントを理解し、「実行計画」の作成、修正が出来るようになる。ひとりで「クラス」をささえるのではなく、学生のセーフティーネットが構築できる。

研修名：　FDミクロレベル〈フォローアップ〉研修　　連携企業等：滋慶教育科学研究所
期間：　2022年6月8日　　対象：エコ・コミュニケーション科教員
内容　新入職者FDミクロレベル研修受講後の実際の授業の振り返りを行い、授業改善の工夫ができる。クラスの成長を促すコーチングの基礎を学び、実践することができる。公開授業の実施と参加に向けて準備することができる。

研修名：　教職員カウンセリング研修　　連携企業等：滋慶教育科学研究所
期間：　2022年9月～10月　　対象：エコ・コミュニケーション科教員
内容　滋慶学園グループの全教職員がカウンセリングマインドを身につけ、学生や保護者に対応できるようにスキル向上を目指し資格を取得する。

（3）研修等の計画
①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：	ドルフィントレーニングについて	連携企業等：	株式会社IKI PARK MANAGEMENT
期間：	2023年10月4日	対象：	エコ・コミュニケーション科教員
内容	イルカのふれあい施設におけるドルフィントレーニング及びその手法について		
研修名：	海洋環境問題について	連携企業等：	福岡県立少年自然の家「玄海の家」
期間：	2023年11月26日	対象：	エコ・コミュニケーション科教員
内容	海洋生物のふれあい企画及び来場者へ環境問題、SDGsの提言について		
研修名：	水族館の展示とショーについて	連携企業等：	海響館
期間：	2024年2月14日	対象：	エコ・コミュニケーション科教員
内容	水族館業務を知り、来館者への展示技術・解説・ショー・イベント等を学ぶ		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名：	クラスマネジメント勉強会	連携企業等：	滋慶トータルサポートセンター
期間：	2023年9月13日	対象：	エコ・コミュニケーション科教員
内容	対応が難しい学生や、今後どのようにサポートしていけば良いかわからないなど、対応に困っている学生の事例報告を行い、勉強会を実施し。クラスマネジメント力の向上を目的とする。		
研修名：	マネジメント研修	連携企業等：	滋慶教育科学研究所
期間：	2023年10月17日	対象：	エコ・コミュニケーション科教員
内容	学校運営に関する必要な知識の習得並びに、姉妹校の成功事例を学ぶことで、新たな視点で自校の学校運営を考え、在校生・卒業生・教員・講師並びに動物業界にとって、より良い学校になるように反映させる。		
研修名：	FDミドルレベル研修	連携企業等：	滋慶教育科学研究所
期間：	2023年7月20日	対象：	エコ・コミュニケーション科教員
内容	FD研修の目的とその展開を理解し、自学科のスタッフの成長を促進出来る。カリキュラムマネジメントの基礎を学び、自学科のカリキュラム開発の課題発見が出来る。		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

（1）学校関係者評価の基本方針
自己点検・評価結果について学校職員以外の関係者による評価を行うため、学校関係者評価委員会を置き、年に1回以上委員会を開催する。評価委員会は、本校教職員が行った自己点検・自己評価の内容を審議・評価することを通じて、学校運営の改善に活かすことを目的とする。評価委員は、卒業生1名、保護者代表1名、近隣関係者1名、高校関係者1名並びに動物業界関係者5名の合計9名の委員定数で構成され、任期は1年である。毎年5月に開催している。

（2）「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
（1）教育理念・目標	教育理念・目的・育成人材像
（2）学校運営	学校運営
（3）教育活動	教育活動
（4）学修成果	学修成果
（5）学生支援	学生支援
（6）教育環境	教育環境
（7）学生の受入れ募集	学生募集と受け入れ
（8）財務	財務
（9）法令等の遵守	法令等の遵守
（10）社会貢献・地域貢献	社会貢献
（11）国際交流	海外提携校との交流

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）学校関係者評価結果の活用状況
継続的な取り組み（これまでの学校評価を踏まえ継続的に実施している内容）
・学生が心の悩み等で不登校や中途退学になり、修学を断念することが無いよう、学生相談窓口を徒歩3分の場所に設置し専属のカウンセラーを常駐し、心を支える取り組みをしている。
・卒後教育及び再就職サポートを継続的に実施している。

昨年度の評価で指摘された事項で、留意して取り組んでいく事項
・コロナ禍のためオンライン授業が主となった1年であったため、子供たちのモチベーションを維持することが難しいと感じられた。実習等の現場での経験不足をどう補うかが課題である。
・小学校の時期からキャリア教育の重要性が言われており、その集大成の年令になるため、「人間教育」のためのさらなる発展を期待したい。
・資格取得に関してはコロナ禍の影響はあると思うが、合格率向上に努めてほしい。資格取得率が上がることを期待する。

などの多くの意見をいただいた。
これらの意見を踏まえ、各部門で改善できる内容については、事務局長・教務部長・各学科長で協議し、更に教務会議及び全体会議等でこれらの意見をスタッフ全員で共有し、具体的な対策を検討しその実現を図っている。教育内容については、毎年5月に開催する教育課程編成委員会に評価委員会の意見を示し、その審議を踏まえ、年末までに学校長が来年度の教育課程の編成方針を決定する。この方針に基づき、教務部長が中心となり、この編成方針を教職員、講師の先生方にも徹底し、各教科のシラバスを作成している。

（4）学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名　前	所　　属	任期	種別
田中　侑弥	エコ・コミュニケーション科 水族館・アクアリスト専攻　卒業生	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日（1年）	卒業生
田中　飛翔	エコ・コミュニケーション科1年在校生　保護者	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日（1年）	保護者
戎﨑　淳一	福岡市大浜公民館　館長	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日（1年）	近隣代表
稲富　勉	福岡県立香椎高等学校　学校長	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日（1年）	高校関係者
佐藤　良治	株式会社 福岡動物医療センターグループ 総院長	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日（1年）	業界委員
岩田　知彦	株式会社 海の中道海洋生態科学館 副館長	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日（1年）	業界委員
坂本　恵理	株式会社 ビースパ マネージャー	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日（1年）	業界委員
山本　雅一	合同会社 ZOO CARAVAN 代表	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日（1年）	業界委員
山口　響	株式会社 AHB 店舗開発部部長	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日（1年）	業界委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
（例）企業等委員、PTA、卒業生等

（5）学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
（ホームページ）・ 広報誌等の刊行物 ・ その他（　　）
URL:　https://www.eco.ac.jp/
公表時期:　令和5年7月1日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

（1）企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針
本校が毎年定める事業計画の実行方針において提起された目標を具体化するために、動物業界の企業等からヒアリングを行い、動物業界の動きを踏まえた実行計画を作成しています。 企業等への具体的な情報提供方法として、業界関係者である兼任教員と教職員との間で講師会議を開催し、授業科目編成や各科目のシラバス等を審議を行い、そこで出たご意見を反映させることを基本方針とする。

（2）「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
（1）学校の概要、目標及び計画	学校の概要、事業計画、事業報告
（2）各学科等の教育	カリキュラム、学年歴、実習要項、シラバス
（3）教職員	教職員の氏名、略歴等の紹介
（4）キャリア教育・実践的職業教育	カリキュラム、学年歴、実習要項、シラバス
（5）様々な教育活動・教育環境	学校設備紹介等
（6）学生の生活支援	学校相談センターの案内、奨学金申込み案内等
（7）学生納付金・修学支援	授業料及びその他実習費
（8）学校の財務	事業計画、事業報告
（9）学校評価	自己点検、自己評価結果、学校関係者評価結果
（10）国際連携の状況	海外提携校との交流
（11）その他	社会貢献（地域社会と連携した行事）

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）情報提供方法
（ホームページ）・ 広報誌等の刊行物 ・ その他（　　）
URL:　https://www.eco.ac.jp/
公表時期:　令和5年7月1日

授業科目等の概要

	（文化・教養専門課程エコ・コミュニケーション科　ドルフィントレーナー専攻）																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			キャリアプランニングⅠ	キャリア教育の一環として、クラスメイト・担任とのコミュニケーションを図り、社会人となる心構えやホスピタリティを理解し、実践できるようになる。	1前後	60	4	○			○		○		
2	○			キャリアプランニングⅡ	将来のキャリア設計を行うと共に、社会人として必要な社会常識や気構え・身構え・心構えなどを発揮できるようになる。	2前後	60	4	○			○		○		
3	○			プレゼンテーションⅠ	人前で話ができるよう自己表現力（人前での話し方）を養い、考えを伝えることができるようになる。	1前後	60	4		○		○			○	
4	○			プレゼンテーションⅡ	就職活動で必要な面接技法や自己PRの仕方、電話応対など、実践的な自己表現力を養い、発揮できるようになる。	2前後	60	4		○		○			○	
5	○			コミュニケーションスキルアップ	良識のある社会人になるために、必要なコミュニケーションを身につけ、就職活動を優位に進めることができるようになる。	1前後	60	4		○		○			○	○
6	○			ホスピタリティ	ホスピタリティの基本を理解し、実践することができるようになる。	1前	30	2	○	△		○			○	○
7	○			キャリアサポートアップ	履歴書の作成、適正検査対策、作文・小論文対策を行い就職活動に臨むことができるようになる。	1後	30	2		○		○			○	○
8	○			社会人基礎力	ビジネスマンとして入職後に必要な基本的な立ち振る舞いを取得し、実践することができるようになる。	2前	30	2		○		○			○	
9		○		グローバルコミニュケーション	リスニング・リーディング・スピーキング・ライティングの４技能を総合的に学び、日常生活において平易な会話ができるようになる。	随時	480	32	△	○		○			○	
10	○			コンピュータ演習	ワード・エクセル・パワーポイントなどの基本的な使い方を学び応用・作成ができるようになる。	1前後	60	4		○		○			○	
11	○			演出効果基礎	プログラムの構成上必要である音響・映像・照明における設備機器や演出効果などを知り、人に感動を与える手法の一つとして理解し活用できるようになる	2前後	60	4		○		○			○	○
12	○			アニマルベーシック	動物を学ぶ上で、その基礎となる細胞、遺伝子、体の機能を学び、説明できるようになる。	1前	15	1	○			○			○	

13	○			動物の体のしくみ	犬を中心とした基本的な動物の体の構造骨格や生理的な知識を学び、説明できるようになる。	1前	15	1	○			○			○	
14	○			動物の健康管理	動物を飼育するための飼育管理方法、病気やその予防法を学び、説明できるようになる。	1後	15	1	○			○			○	
15	○			アニマルヒストリー	コンパニオンアニマルとしてのルーツを探り、動物の歴史と人間の関わりなどを学び、説明できるようになる。	2後	15	1	○			○			○	
16	○			次世代のための環境教育	人の理解・自然と暮らし文化に基づき、環境教育の基礎を学び、伝えることができるようになる。	1前後	60	4	○			○			○	○
17	○			海洋自然観察概論	特別講師の方々から自然環境の現状を知り、動植物との共存と保全や再生活動を人に伝えることができるようになる。	1前後	60	4	○			○			○	○
18	○			SDGｓ	SDGsの掲げる17のゴールを理解すると共に169の目標を知り、自身に出来ることを考え実践できるようになる。	2前後	60	4	○			○			○	○
19	○			海洋哺乳類Ⅰ	海に生息する哺乳類の分類、行動、生態などの基礎知識を学び、伝える事ができるようになる。	1前後	60	4	○			○			○	
20	○			海洋哺乳類Ⅱ	鯨類、鰭脚類を中心に海洋哺乳類の分類、行動、生態などについての知識理解を深め、実践の場で活用できるようになる。	2前後	60	4	○			○			○	
21	○			ドルフィントレーニングⅠ	イルカの飼育方法や、飼育する上で必要なトレーニングの基礎知識を学び、説明できるようになる。	1前後	60	4	○			○			○	○
22	○			ドルフィントレーニングⅡ	イルカを飼育する上で必要なトレーニングを応用した方法を学び、伝える事ができるようになる。	2前後	60	4		○		○			○	○
23	○			ドルフィントレーニング演習	水族館施設等を訪れ、各施設ならではのプログラム・トレーニング・飼育健康管理等を学び、様々な視点からトレーナー像を考える事ができるようなる。	1前後	60	4		○			○		○	○
24	○			水生生物研究	水生生物の進化、分類、生理、生態などについて学び、伝えることができるようになる。	2前後	120	8		○		○			○	
25	○			水槽管理	水生生物の生態や飼育管理方法の基礎を学び、飼育管理できるようになる。	1前後	60	4		○		○			○	
26	○			水族館総合演習	水族館の役割、歴史や飼育業務について学び、これからの水族館について考え、伝えることができるようになる。	1前後	60	4		○		○			○	○
27	○			繁殖生理学	水生・海洋生物における繁殖生理の基礎、繁殖に関するメカニズムや繁殖環境・繁殖行動などを理解し、説明できるようになる。	2前	30	2	○			○			○	

28	○			動物栄養学概論	動物の食餌に必要な栄養素とその働きについて学ぶと共に、飼料の種類・給餌方法などを学び、伝えることができるようになる。	2後	30	2	○			○			○	
29	○			水族館概論	日本動物園水族館協会が担う4つの役割を理解し、水族館及び水族館飼育スタッフが果たすべき社会的責任を説明できるようになる。	1前後	60	4	○			○			○	
30	○			海洋生態	海洋の物理的・化学的特性を学ぶと共に、海洋環境と生物の関係や海生動物の個体間の相互関係などを学び、伝えることができるようになる。	2前後	60	4	○			○			○	
31		○		スイムトレーニング	実務に有効な基礎泳力を身に付け、就職活動を優位に進めることができるようになる。	1前	15	1		○			○		○	○
32		○		船舶免許対策講座　２級・特殊	広い水域での生物探査・観察ができるようになるために必要な動力船に対する知識を学び小型船舶操縦士2級免許取得をする。	1前	30	2		○			○		○	○
33		○		船舶免許対策講座　1級	小型船舶操縦士１級や特殊の免許取得をする。	1後	30	2		○			○		○	○
34		○		ダイビング演習	PADIダイビングライセンス取得を目指します。限定的な範囲の水中を対象に、水中の生物観察・調査が安全に行える潜水・潜行技術を身に付けることができるようになる。	1前	30	2		○			○		○	○
35		○		潜水士対策講座	国家資格「潜水士」の合格を目指します。	1後	30	2	○			○			○	○
36	○			企業プロジェクト	それぞれのプロジェクトを理解し、企画立案、提案、実行を個人またはチーム活動として行い、成果を残すことができるようになる。	2前後	120	8		○		○			○	○
37	○			進級課題	学んだ専門知識や技術の集大成として、学習成果が進級に値する実力を修得しているか課題に取り組み、課題の研究発表または実技の披露を行います。	1後	60	4		○		○		○		
38	○			卒業課題	入学以来これまで身につけた専門知識や技術の集大成として、学習の成果が卒業に値する実力を修得しているか評価するために、研究発表または実技の披露を行います。	2後	60	4		○		○	○	○		
39		○		業界研修	業界現場である各種動物施設で、実際の仕事を体験し、自己研鑽を行います。	随時	180	12		○			○		○	○
40		○		特別講義＆見学	業界で活躍中のプロの方々から豊富な知識・情報を頂く特別授業や施設見学を行います。	随時	30	2		○		○	○		○	○
41		○		海外実学研修	グローバル化する現代社会で活躍するために、国際性を身につけるための国際教育です。	1後	60	4		○			○		○	○
42		○		海外専門留学	10週間オーストラリアに留学し、さらなる専門知識や技術を修得すると共に、国際人としての語学力と感性を身に付ける事を目的に実施します。	随時	450	30		○			○		○	○

43		○		イベント運営	学習成果の発表の場としてのイベントを行い、習得した専門知識や技術を実践します。	随時	30	2		○			○	○		
44		○		特別課外活動	学友会活動やクラブ活動を通して、チームワークや企画、運営力を養います。	随時	30	2		○		○		○		
45		○		ボランティア活動	市民社会の形成に貢献するために、ボランティア活動を行います。	随時	30	2		○		○	○	○		
46		○		資格取得講座	各専攻で学んだ専門知識や技術の、さらなるレベルアップを図るために、検定試験に挑戦し資格取得を目指します。	随時	30	2		○		○		○		
47		○		内定者研修	就職内定者を対象に、現場力を身につけるために実践的な研修を行ない、卒業時には即戦力として活躍できるようになる。	2後	90	6		○			○		○	○
48		○		特別研究課題	就職内定者を対象に、就職先よりレベルの高い研究課題をいただき、この課題に取り組むことにより実力がつき、これまで身につけた専門知識を総合的に発揮できるようになる。	2後	180	12		○			○		○	○
49		○		卒業企業課題	就職内定者を対象に、就職先より企業課題をいただき、この課題に取り組むことにより実力がつき、これまで身につけた専門知識を総合的に発揮できるようになる。	2後	180	12		○			○		○	○
合計					49　科目			1800 単位（単位時間）								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	各年次60単位以上取得し、2年間で120単位以上取得する。これを踏まえ、卒業認定会議で卒業認定されること。	１学年の学期区分	2 期
履修方法：	洗濯必修科目と自由選択科目を履修し、各科目66,7%以上の出席し試験等による60点以上の評定で単位取得する。	１学期の授業期間	15 週

（留意事項）

１　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

２　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。